

家族の力・子ども社会の力

校長 佐藤 宏美

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしく申し上げます。うさぎ年にふさわしい真っ白い気持ちで元気のよい子どもが育つように願っています。

さて、保護者の皆様が一番の喜びは何ですか。私は子どもの成長が最大の喜びだと思っています。私は自分の子どもが、一言を言った時、伝え歩きをした時、保育園や幼稚園に入園した時、運動会で完走した時などがうれしかったような気がします。子どもの成長と共に親としても成長できたような気がします。(子どもに育てられた)

「自分はいつどこで成長したのかなあ。」と思う時があります。数十年も前のことなので十分思い出せないのですが…。

小学生の頃の私は、学校での学習、子ども社会の仲間づくり、親(家庭)の家風のしつけ、自然の中での遊びなどの中で成長してきたと思っています。なかでも、年齢差のある遊び集団の中で成長したような気がします。小学校の頃は、親子でふれ合ったりしたのは朝 2 時間・夜 3 時間位です。この 5 時間の中で親は私に家族のきまり、社会のきまり、親の考え方、親の生活の仕方を教えてくれました。そして、それが当たり前に行えるようにしつけてくれました。

しかし、それだけでは十分ではありません。もっともっと大きな社会のきまりや相手を思いやることを学ばなければ、子どもは十分に育ったとは言えません。

幸い子ども社会は家族よりは大きな社会です。いろいろなことを学ぶのにとっても適しています。しかし、子ども社会は大人の社会とは異なっていて、相手を思いやる力が十分ではありません。そのため、時には厳しく遠慮ない言動が見られます。その中で、子ども達は、傷つき、苦しい体験をし、耐え、悩みます。そして相手のこと、自分のことを考え、子どもは子どもなりに成長していきます。6 歳から 12 歳の子どもたちは、子ども社会、家庭、学校の中で、その時でなければ成長できないことをしているのです。学級・学年・学校という集団の中で、互いに「進んで」学ぶ、遊ぶ、思いやる子をより一層育てていきたいと心新たにした元旦でした。どうぞよろしく申し上げます。